

気象庁の予報通り、3月も半ばすぎても全国的に平年を2, 3℃上回る日が続いている。この影響で3月11日には全国のトップを切って広島で❀開花が宣言され、12日には福岡、14日には東京・・・と続いている。近畿圏でも16日には京都で開花宣言が発せられ、大阪も18日に開花宣言となった。

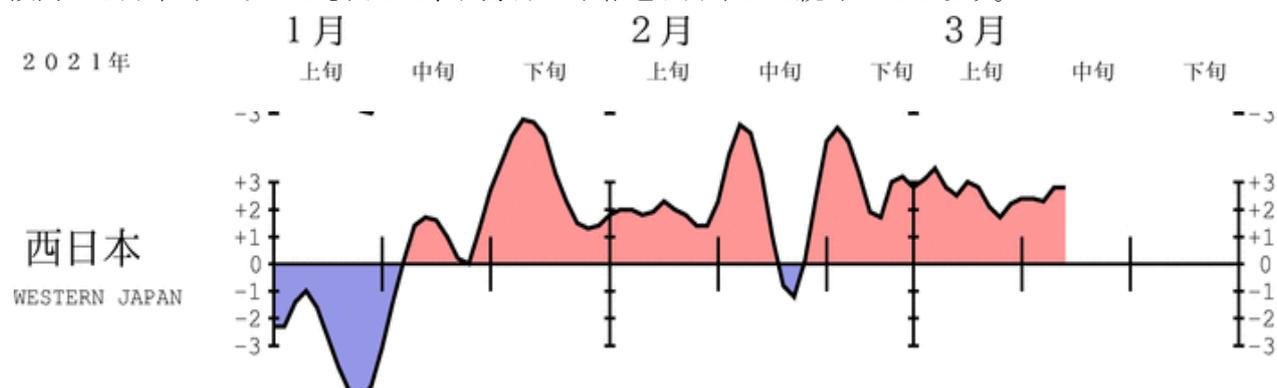
この近くでも、私の観察木では14日に6, 7輪の花が開き、規定によれば「開花宣言」であるが、その後の花の増え方は遅々としており、17日に70～80輪といったところである。附近の街路樹、公園、や庭園の桜なども14～16日に開花した樹が多いように思う。一方、15日には開花が見られなかった近くの夙川公園の桜も18日には5本に1本は5, 6輪から数十輪の花をつけていた。

皆さまの観察木は如何でしょうか？

サクラだより4以降、皆さまからの情報を加えて、今年の桜の開花状況をまとめておきます。

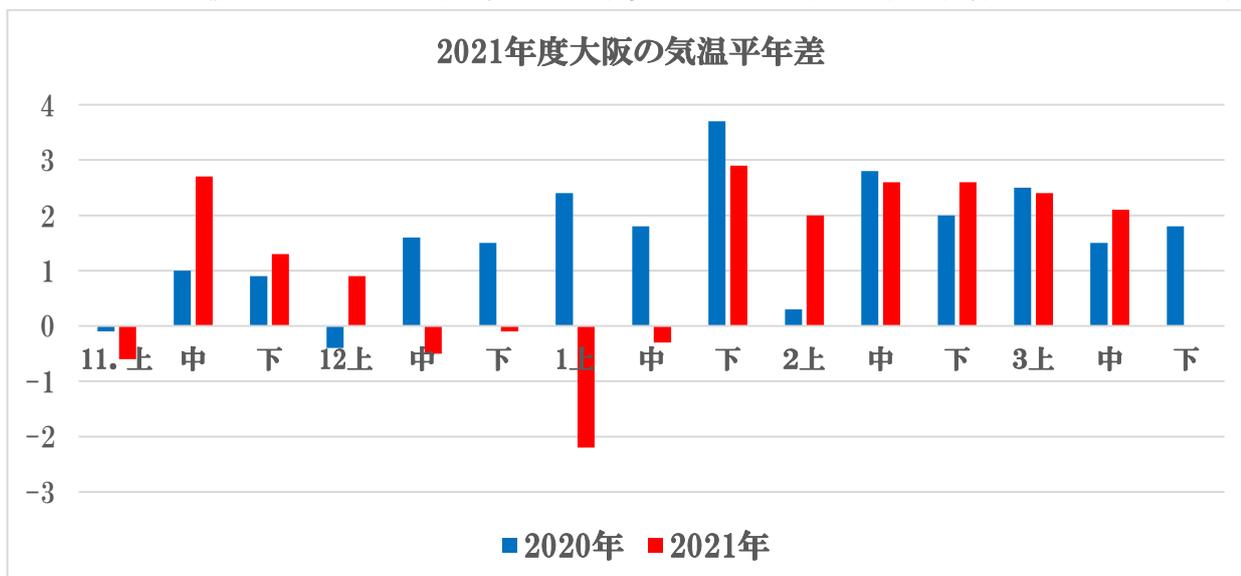
### 1. これまでの気温の経過

・再々記しているように1月中旬以降、平年に比べるとかなり気温の高い日が続いて来ています。この傾向は3月中旬になっても同じで、気象庁の予報通り月末まで続くのでしょうか。



#### ・大阪の冬季気温の傾向

平年との差を記録的な暖冬と言われた昨年と比較して示しておきます。2月下旬以降は昨年並みかむしろ高めに推移して来ていることが分かります。❀の開花にどのように影響してくるのでしょうか。



## 2. 各種サクラの開花情報

### 2-1. ヤマザクラ

4号配信以降、皆さまからはヤマザクラの開花情報が寄せられています。

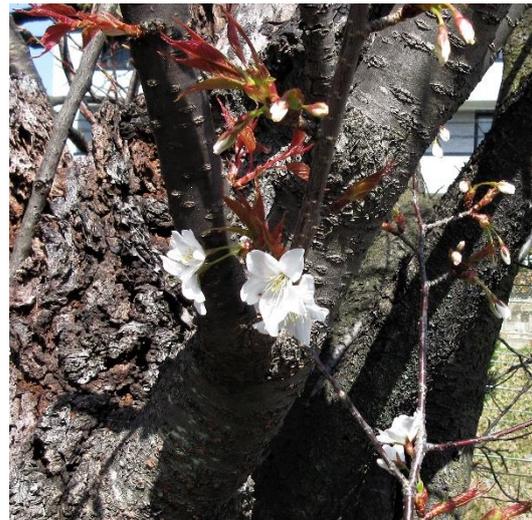
- ・宝塚 3月4日に開花昨年と同じ
- ・京都 3月11日開花、昨年より3日早い
- ・泉佐野丘陵 3月14日 1分咲き（右写真）

昨年より10日早い

\*ヤマザクラと言えば、ソメイヨシノなどとは違い葉と花が同時に展開し、葉の色が茶色で花は薄いピンクと言うのが代表種で、これ一種かと思われがちです。実際は昨年も「サクラだより14」などに記載しましたように、長い歴史の中で変異や交雑を繰り返し

その姿は千本千様と言われ、野生の個体それぞれに特徴があると言われていています。近頃は、街中にも植栽されますが、元々は「山に咲くサクラ」の総称として使われてきたものであるとされています。

茶色の葉、薄いピンクの所謂「ヤマザクラ」下右は3月17日芦屋岩が平保存林（満開）、左は18日に夙川教会近くで（開花）、また岩が平保存林には昨年は4月に開花した品種もあり（現在未開花）外見が同じようでも全く花期の異なる品種が存在します。



\*最近六甲山、山麓ではヤマザクラが多く見られるようになってきています。これは六甲山グリーンベルト計画の一環として、ここ数年各種団体によって植樹が進められてきているからです。今年も3月7日に東灘区・岡本で地元団体により200本の苗木が植えられたとのニュースが伝えられています。

### 2-2. シナミザクラとヒカンザクラ（追記）

この2種については3報、4報で開花等について記述しました。この2種に関しては皆さまからの情報も頂いています。シナミザクラについては開花日等に差はないようですが、ヒカンザクラ（カンヒザクラ）に関してはかなり開花、満開等の期日にばらつきがあります。この2種は日本在来種でなく移入種であり、生活様式が全く異なるのも一因かも知れません。

シナミザクラは当方の2か所の観察では2月27日開花、3月3日満開と花期が極めて短いものでした。この種は「自家受粉」が可能で、虫媒など必要ないため花を咲かせておく期間は短くても良いのであ

ろう。加えて花は平開し、開花・満開も極めて分かり易い。従って、皆さまの報告も同時期が多い。

一方、ヒカンザクラの方は当方の観察では3月21日の開花、満開を3月5日としているが、右は3月11日の画像である。こちらの方も満開状態。前者とは逆に、媒介を野鳥にゆだねる為、花期が非常に長い特徴がある。加えて本種の花は釣鐘型で下向きに咲く。また、開花しても全開せず半開状態である。極めて満開など決め難い種である。以前に記述しているが、本種の原因は台湾、標高800m以上に分布する種。花期が台湾の雨季に当たる為、種保存の為このような進化をしてきたのであろう。また、同じ場所でも開花日に差が見られたなどところ変われば開花時期が異なることも考えられます。

なお、シナミザクラに関連し「セイヨウミザクラ」の開花（満開）の情報もいただいています。

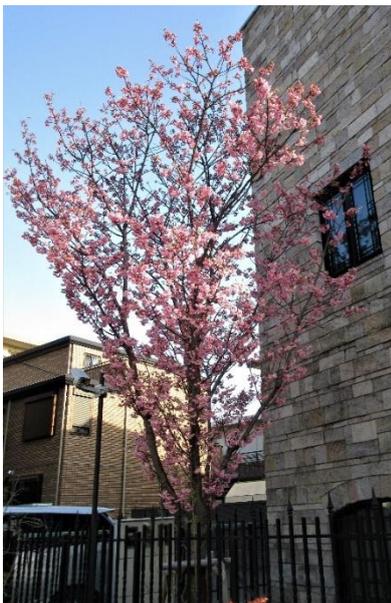


### 2-3. 陽光（桜）

ヨウコウ（陽光、学名: *Cerasus campanulata* ‘Yoko’）は日本原産の交雑種のサクラで、愛媛県に在住していた高岡正明氏がアマギヨシノと（天城吉野）カンヒザクラ（寒緋桜）を交雑させて作出した栽培品種であり、1981年に種苗法により品名等が登録されている。樹形は広卵状で、てんぐ巣病や病害虫に強い樹勢強健な種とされる。花期はソメイヨシノより少し早く咲き、一重咲きで、花径は4、5センチくらいある大輪で、3、4輪が下向きにつく。寒緋桜（カンヒザクラ）の紅色が残されている。

\*高岡正明氏は第2次世界大戦中に学校教員であったが、戦後、戦死した生徒たちの冥福を祈って各地に桜を贈ることを思い立ち、環境適応能力が強いサクラを作出すべく、25年の試行錯誤の後に、寒さに強い日本のソメイヨシノに由来を持つアマギヨシノと台湾もしくは日本の暑さに強いカンヒザクラを交雑させて誕生させた。（鎮魂の桜として植栽される）

このサクラは当地では3月11日に開花し、3月18日に5分咲きとなっています。



写真は3月18日5分咲き時の撮影です。

## 2-4. オオシマザクラ

今更ながらオオシマザクラとは

・名前のとおり大島を含む伊豆七島、伊豆半島及び房総半島を原産とするサクラ。話題の中心になることは少ないが、薪炭用に植栽されるほど丈夫な性質を持ち、他のサクラ類の台木にも使われる。美しいサトザクラ（カンザンなど）の多くは、これを起源とし、ソメイヨシノやイズヨシノの片親でもある。

・花は3月から4月にかけて、葉と一緒に展開するため花期に遠目から見ると木全体が黄緑色に見える。花弁は5枚で色は白が基本だが、稀に薄紅色となる。サクラの仲間としては珍しく花に芳香があるのが特徴。八重咲きの品種もある。

・7月頃にできる果実は球形で黒紫色。種を蒔けば発芽する率は高い。苦味が強く食用には不向き。

・葉にはクマリンという成分が含まれ、特有の香りを持つ。桜餅を包むのに用いるのはこのサクラで、6月ころの葉を塩漬にしたものが翌年に使われる。ちなみに桜餅の発祥地は東京向島の長命寺で、販売開始は1717年（享保二年）だが、当時はオオシマザクラが一般的ではなく、より小さなヤマザクラの葉を使用していたという。



（右の写真はサクラ並木中のオオシマザクラ、ソメイヨシノのピンクの中で白色に見える・昨年満開）

観察中の上記のオオシマザクラは3月16日に3輪ほどが開花、翌日17日には一気に50~60輪が開花、18日には0.5分咲きと急激に花数を増やしてきています。周囲のソメイヨシノの開花より2日程早く、昨年より3日早い開花でした。

右は開花始めの画像、開花時の「緑色」を感じていただけるでしょうか？

\*なお、この他「ベニシダレ」が3月16日には開花していますが、後日報告します。



3. 別件ですが、数日前に神奈川県・横浜などで異臭騒ぎ、「魚の腐った匂い」「ガスの匂い」がするとの警察や消防局への届け出が続出。お役所や消防が調査に乗り出したが「原因不明」のニュースが流されました。皆さまはお分りですね。多分「ヒサカキ」の花の匂いでしょうね。この附近でも

散策していると彼方此方で臭気を感じます。探せば近くに「犯人」が見つかります。今年はびっくりするほど多くの花をつけています。下向きに目立たないつぼ型の小さな花をつける彼、彼女の子孫を残す為の戦略です。無論、媒介者である虫を呼び込む戦略です。一つの自然の生き様です。 以上